別紙１

令和３年度
知事を囲む県下商工会議所
正副会頭会議　要望書

会議所名	白河商工会議所
担 当 部	企画総務課長
担 当 者	今井　貴信

（1）単会としての要望

要　望　項　目	都市計画道路白河中央線国道２８９号交差点以南の整備促進と都市計画道路白河駅棚倉線（国道２９４号交差点～関辺松並地内）の４車線化の早期実現について
要　望　内　容	現在整備中の国道２９４号白河バイパスは、通勤・通学など市民生活の利便性の向上はもとより、小峰城と南湖公園を直線で結ぶ新たな観光ルートの構築、さらには白河中央スマート IC 及び国道４号と国道２８９号が直結されることから、国道２８９号沿いに立地する「白河地区農工団地（住友ゴム工業(株)白河工場など)」、「表郷第一工業団地」及び「白河東工業団地」はもとより、北関東と南会津の物流の新たな動脈として期待されております。 一方において、国道２９４号バイパス供用開始後は、接続する国道２８９号交差点において、さらなる道路交通の集中が見込まれており、日常的な交通渋滞や事故が心配されるなど基幹的な道路としての機能が十分果たせない可能性があることから、次の２点について強く要望いたします。 （１）都市計画道路白河中央線国道２８９号交差点以南の整備促進 （２）都市計画道路白河駅棚倉線（国道２９４号交差点～関辺松並地内）の４車線化の早期実現

要　望　項　目	地域救急医療対策のための近隣県との広域連携体制構築について
要　望　内　容	白河市は、福島県南部に位置し、栃木県北東部との歴史上の関わりも深いことから、令和元年５月２４日、栃木県大田原市との文化振興と地域経済の発展に寄与することを目的に文化交流協定が締結されました。さらには、本年９月３０日、災害時における相互応援に関する協定が締結されるなど、行政間において連携・交流が図られております。 そのような中、白河市を含む県南地域において、誰もが安心して生活できる地域づくりを推進していくためには、「医療」の充実が重要課題であり、当地域内には救命救急医療機関が存在しないため、栃木県北部との広域連携による救急医療対策が強く求められております。 特に、栃木県大田原市の第３次救命救急医療機関である「那須赤十字病院」に新たなドクターヘリの基地病院とすることで、県境を越えた運行範囲が可能となり、ドクターヘリの出動要請は人命に関わり一刻一秒を争う救急搬送が求められるため、身近に救急医療体制が構築されると誰もが安心して生活できる地域づくりにつながります。 つきましては、福島県におけるドクターヘリについては、自県全域を運行範囲としてはいるものの、当地域から基地病院までの搬送時間は約２０分を要し、傷病者の重症度や緊急度によっては人命に関わることから、栃木県との広域連携を図り、新たな救急医療対策を講じていただきますよう強く要望いたします。

要　望　項　目	工業の森・新白河Ａ工区の早期造成について
要　望　内　容	福島県の南端に位置する本地域は、東北縦貫自動車道、あぶくま高原道路をはじめ、東北新幹線、さらには福島空港に隣接するなど、高速交通ネットワークが整備され、県内交通の要衝となっております。 このように、恵まれた高速交通体系と首都圏に近いという地理的優位性から、現在も企業の進出が相次ぎ、経済活動の活性化や雇用の拡大が図られているところであります。 さらに現在の企業を取り巻く状況は、コロナ禍でのサプライチェーン毀損に起因するサプライヤーの国内回帰や地方へのリスク分散などによる産業形態再構築への動きにより、その受け皿となる地方への期待はさらに高まっていくものと考えられます。 一方で、県内の雇用の確保、産業の集積等のため、本県においては企業誘致に取り組まれているものの、受け皿となる大区画の工業団地用地が極めて少ない状況にあると伺っております。 そのため、高速交通ネットワークに近接し、強固な地盤と約２０haの面積を誇る当地の「工業の森・新白河Ａ工区」につきまして、現在のオーダーメイド造成方式から先行造成による完成された優良工業団地として、企業誘致に取り組んでいただきますよう強く要望いたします。